

倒れている人を見つけて近くでほえる災害救助犬



災害救助犬の任務や訓練は

浪岡高で
実演 能力の高さに驚き

青森

青森市の浪岡高校で11日、同市のNPO法人北東北捜索犬チーム（岩本良二理事長）が災害救助犬について講演、災害救助犬3頭が訓練の一部を実演した。全校生徒64人が災害救助犬の任務や訓練、能力の高さを学んだ。

同法人は山菜採りの入山者、認知症老人、自然災害による行方不明者らの捜索活動、災害救助犬や嘱託警察犬、セラピー犬の育成などを目的に、2008年に

有志による前身団体を結成し、12年にNPO法人化。東日本大震災や今年の能登半島地震などで被災地に出動した。

同校は防災訓練の一つとして、災害現場で捜索活動に当たる同法人の話を聞くことで防災意識の高揚を図ることにした。

岩本理事長は「災害救助犬から学んだこと」と題して講演し「災害救助犬は警察犬と違い、人の息などの浮遊臭を嗅ぎ取る」「倒れている人に反応するよう訓練している」などと説明。同法人の災害救助犬でラ

ブラドルレトリバーの三太郎、もみじ、ららの3頭が訓練の様子を披露。小屋に隠れた人や体育館の倉庫に隠れた人を見つけてみせ、生徒たちは災害救助犬の高い能力に驚いていた。

3年の坂本晃渉さん（18）は「地元でこういう団体があるのを知らなかった。犬の嗅覚が人の1億倍と聞いて、思ってもいない桁だった」と驚いた様子。将来は自衛隊入隊を希望しており「災害救助犬と仕事をすることもあるかもしれない。いい経験になった」と話した。

（須々田一宏）

「陸奥新報社提供」

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

災害救助犬ってすごい！

浪岡高校 防災教室で講話や実演

浪岡高校(箱田憲哉校長)で11日、防災教室が開かれた。災害救助犬についての講話やデモンストレーションなどを通じ、社会に貢献する犬について理解を深めながら防災意識を高めた。全校生徒64人を対象に、防災教室としてNPO法



倒れた人を発見し、ほえて知らせる。訓練の成果を披露した



救助犬とのふれあひも。「お利口だね」「おとなしくて、かわいい」と笑顔

「救助犬、セラピー犬、ハンドラーは、まだまだ足りない。育成は、寄付や募金、会員の会費で賄っ

人北東北捜索犬チーム(青森市浪岡大字樽沢)の岩本良二理事長を講師に、講話とデモンストレーションを行った。
最初に災害現場での捜索犬の活動をテーマに講話を行い、令和3年の熱海土石流災害や4年の鶴岡土砂災害、今年1月の能登半島地震での活動をスクリーンで紹介。「犬の嗅覚は、人間の1億倍、瞬時に複数の匂いをかぎ分ける。能登半島地震では、4匹の救助犬と8人のハンドラーで参加した。1月5日に浪岡を出発し、9日に帰ったが、道路状態が悪く、実質1日しか活動できなかった。滞在中は、犬も人も車で過し、食事も自分たちで準備した。現場で大切なことが、消防や警察、自衛隊との連携、犬や自分たちの安全管理、情報の取得と共有と報告。
「救助犬、セラピー犬、ハンドラーは、まだまだ足りない。育成は、寄付や募金、会員の会費で賄っ

ている。現在の会員は、33団体・157個人。多くの支えが必要と訴えた。
続くデモンストレーションでは、いずれもラブラドル・レトリバーで4歳のメス「らら」、6歳のオス「三太郎」、8歳のメス「もみじ」が訓練や小屋の捜索、器具室に隠れた人の捜索を披露した。
「救助犬の訓練で最初に教えることが、吠えること。倒れている人がいれば吠えるよう訓練する」とし「大切なことは、上手にできたらほめて、ごほうびをあげること。絶対にはいけない。ほめて、ごほうびをあげることで犬と人の絆が深まると強調。
さらに、二つの小屋を探して中に人が入っている小屋を見つける訓練や3室の器具室を探して人が入っている器具室を見つけるデモンストレーションも披露した。
質疑応答もあり「救助

犬に向く犬は、人が好きで遊び好き、健康な犬たくさん遊ばせ、適正を見極める。犬種や大きさは関係ない」と話した。

岩崎華保さん(2年)は「社会に役立つ犬の才能に驚いた。よく訓練されていて、すごいと思った」と感心していた。

「津軽新報社提供」

この画像は、当該ページに限って津軽新報の記事利用を許諾したものです。転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

災害救助犬の仕事 すごい 防災教室 浪岡高生、理解深める



隠れている行方不明者役のスタッフを見つけ出す災害救助犬のラブラドルレトリバー「三太郎」

青
森

NPO法人「北東北捜索犬チーム」（岩本良二理事長）はこのほど、浪岡高校（箱田憲哉校長）で、災害救助犬の役割を知ってもらおうと防災教室を開いた。全校生徒64人が、地震や土砂崩れ発生時などで不明者を捜索する災害救助犬への理解を深めた。

講演には同チームに在籍する災害救助犬10頭のうち、ラブラドルレトリバーのらら（雌、4歳）、三太郎（雄、6歳）もみじ（雌、8歳）の3頭が参加。岩本理事長が、人のおいの伝わり方や災害現場への出勤状況を説明し、三太郎がおいをたどって被災現場に見立てた家屋に隠れた人を捜し当てると、生徒たちからは「すごい」と拍手が送られた。

普段は被災地の悪路を想
「人間にはない能力で多くの人を助けることはすごい。犬の賢さを実感した」と話した。（木村真悠）

定してはしごを渡ったり、出口がふさがるトンネルをくぐり抜ける訓練に励んでいる。1月に発生した能登半島地震では、4頭の災害救助犬と、犬に指示をしてともに捜索に当たった8人のハンドラーが派遣され、行方不明者の捜索に当たったという。岩本理事長は「倒壊家屋などをかき分けて捜索するため、犬とハンドラーはとても歩きづらい。人間の浮遊臭をたどって1頭で何人もの人を見つけられる」と話した。

「東奥日報社提供」

この画像は、当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。